

北海道立水産孵化場は

『地方独立行政法人 さけます・内水面水産試験場』になります

魚と水編集委員

北海道立水産孵化場は平成 22 年 3 月 31 日をもって、昭和 27 年(1952 年)4 月 1 日の発足以来、58 年間続いた歴史に一旦幕を閉じ、平成 22 年 4 月 1 日からは地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部さけます・内水面水産試験場として生まれ変わります。地方独立行政法人以降後も、当誌『魚と水』はこれまでどおりの名称で発行を続ける予定にしておりますが、組織機構が大きく変わる節目となることから、『北海道立水産孵化場として刊行する魚と水最終号』として、特集記事を掲載することにいたしました。本号では、現場長、河村博から新体制での出発に向けてのご案内をするとともに、元場長ら(粟倉輝彦氏、岡田鳳二氏)により当時のエピソードと思い出を紹介しながら、北海道立水産孵化場の歴史の概略を記録しております。

ここで、これまでの当場の歴史について、簡単に触れておきたいと思います。当場の歴史は、大きく分けて本場庁舎が恵庭市に移転する前とその後に分けられます。そこで、当場を庁舎移転前の『札幌中の島時代(昭和 27~60 年)』と移転後の『恵庭時代(昭和 60 年から平成 22 年)』に分け、それぞれの時期の様子について、元職員らのエピソードや思い出を交えながらご紹介いたします。

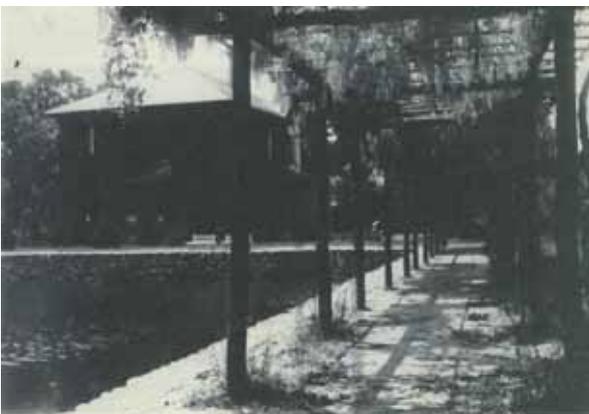


写真 1 中の島旧庁舎(昭和 28 年に消失)



写真 2 現在の庁舎(平成 22 年 3 月)



写真 3 庁舎入り口の看板
(平成 22 年 3 月)

なお、当場の開場から現在に至る詳細な歴史につきましては、当場の開場 50 周年と庁舎の恵庭移転から 20 周年を併せて記念し刊行されました、魚と水 41 号(2005)に書かれておりますので、本号では割愛させていただきますが、興味のある方は本号と併せてそちらもご覧ください。

(魚と水編集委員)